



※写真は実車でイメージです 実際の製品仕様と異なる場合があります

12系ぐんま車両センター



◆実車ガイド

- ・12系は1969年に登場した急行形の客車で、2段式ユニットサッシが並ぶ車体で青色に白い帯2本が特徴です。
- ・JR東日本 ぐんま車両センターの12系客車は各種イベント列車で活躍し、高崎地区のみならずJR東日本管内に貸出されて幅広く活躍をしています
- ・スハフ12形149番～163番は最終増備車の車両で、50系客車と一部部品の共通化が図られたため幌・後方監視窓の形状などが変更となり、外観に変化が生じました

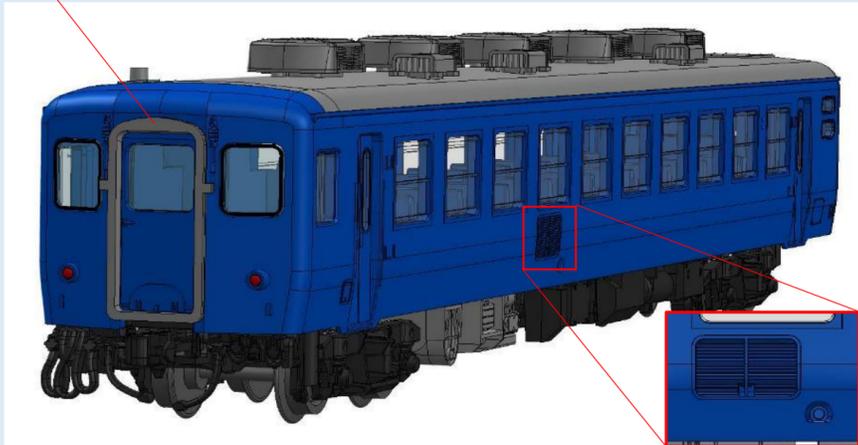
【文責：トミーテック】

◆ここがポイント

POINT:1

スハフ12-161・162形は後方監視窓の小さい後期型で、各部の形状を見直しの上再現

- ①車掌室側妻面の渡り板は車体側に変更、外付けの幌枠は薄型で畳まれた形状を再現



- ②切り欠きのある側面ルーバーを新規製作で再現

POINT:2

大人気の客車用TNカプラーに12系用ジャンパ栓パーツが登場！
14系とは異なる12系特有のジャンパ栓・ホースが3本の姿を再現



＜PZ6299＞として発売予定！
お手持ちの12系客車のグレードアップにご活用ください！

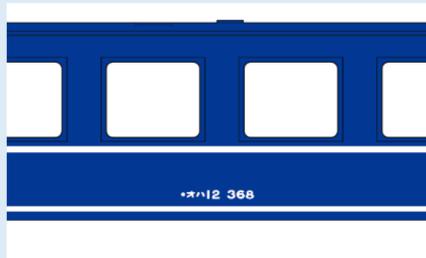
POINT:3

屋根上のベンチレーターは別パーツで立体的に再現

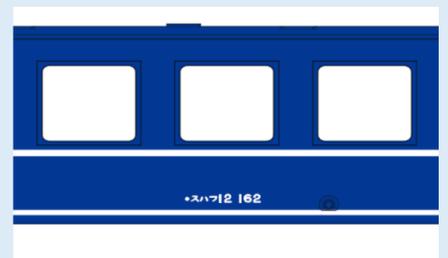


POINT:4

オハ12-368形、スハフ12-162形は高崎車両センター時代を再現した従来製品＜92843＞とは異なる車番の位置を再現



オハ12-368形は窓柱中心で再現
(従来製品は窓の下)



スハフ12-162形は給水口横の窓下で再現
(従来製品は給水口から2個目の窓下)

※画像は試作、開発中および旧製品でイメージです 実際の製品仕様と異なる場合があります

◆製品化特徴

- ・ぐんま車両センターに所属し、イベント列車を中心に活躍する12系客車を再現
- ・12系のTNカプラー用ジャンパ栓パーツを新規製作し、14系とは異なるジャンパ栓・ホースが3本の姿を再現
- ・スハフ12形は後期型の車掌室窓が小さく幌が剥き出しの姿を形状を見直しの上再現
- ・スハフ12-162形、オハ12-368形は高崎車両センター時代を再現した従来製品＜92843＞とは異なる車番の位置を再現

- ・スハフ12-162の車掌室側はTNカプラー装着済み、スハフ12-161の交換用として1組付属
- ・スハフ12形のアンテナは別パーツ付属
- ・機関車用ヘッドマーク「急行津軽・津軽」付属
- ・赤色反射板と穴あけ治具が付属
- ・テールライトは常点灯基板装備、ON-OFFスイッチ付
- ・車番は印刷済み
- ・新集電システム、黒色車輪採用

■セット内容・編成例

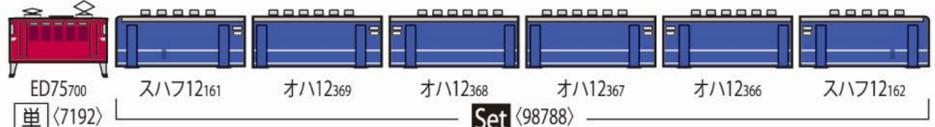
＜別売りオプション＞
室内灯：＜0733＞LC白色
TNカプラー：＜0336＞密自連形

●12系(ぐんま車両センター)(2024年頃)



※この編成の場合、オハ12-368は使用しません。

●臨時急行「津軽」(2019年)



品番	98788	品名	JR 12系客車(ぐんま車両センター)セット	セット両数	6両
発売月	2025年11月	JANコード	4543736987888	予価	¥19,800 (税込)
原産地	日本	パッケージサイズ	218×304×34mm	パッケージ形態	ブック型プラケース

JR東日本商品化許諾済

ありがとう、ぐんま車両センター EL・DL 同時期発売予定！



EF64-1000形(1001号機)



EF64-1000形(後期型・JR東日本仕様)



EF65-500形(501号機)



DD51-800形(ぐんま車両センター)